

第7号議案 大会事業委員会からの報告

全柔連大会事業委員会 = 高石正伸大会事業委員

1. 18年度の主たる検討事項

(1) 2007年嘉納杯運営について

福岡国際女子を2006年第24回大会で終了。2007年12月7日～9日の3日間開催で、男女同時の嘉納杯としていく。会場は東京体育館を予定。

男女同時開催で国際大会スーパーAトーナメント大会に準じた大会としていく。

(2) 2007年全日本選抜体重別の運営について

2006年までの4月第1日曜の男子選抜(福岡)第2日曜の女子選抜(横浜)を2日間開催で、福岡国際センターで男女同時開催を予定。

(3) 国体参加人数削減数(平成20年から)地区別選出数について

(4) 小学生学年別柔道大会(実施種目など)について

現在、学年別(5,6年生)、男女別、体重別(2階級)の計8階級での実施を体重区分を3階級に増やしての実施要望・・・会場、日程、予算上の課題クリア

(5) 大会の出場資格について

全日本選手権大会と国体において、予選の出場地区の選択で、解釈の違いが出ており、参加者側に戸惑いが生じていることへの対応が必要。

(6) 大会運営規程(案)の作成

(7) その他

ア 平成19年度全日本ジュニア及び全日本選抜少年大会の日程は世界柔道選手権大会(ブラジル国リオデジャネイロ市)が9月13日～16日で開催が予定される関係から、調整する必要がある。

平成17年度は、エジプト国カイロ市での世界選手権日程の関係から、全日本ジュニアを第3周、選抜少年を第4周で開催した。

イ 講道館杯善意本体重別選手権大会の会場地

千葉県柔道連盟では2年間ずつの取り決めで計4年間開催(18年度まで)。

19年度からの開催地の検討が必要。

全日本ジュニア(埼玉)、講道館杯(千葉)、全日本女子選抜体重別(神奈川)

ウ 国体参加資格「勤務地」の解釈

(ア) 日本体育協会解釈

平成18年4月30日以前から大会参加時まで引き続き、雇用者と雇用契約を締結した上で、現に主たる勤務実態を有する会社等の所在地を指す。

(イ) 全日本柔道連盟解釈

現在検討中であり、間もなく案をまとめる。

2. 小委員会開催

(1) 全体会委員会の議案県央、議題・資料の整理。

(2) 大会運営規程(案)ワーキンググループ

(3) その他

3. 各種大会への委員会派遣

(1) 競技統括

全日本女子選抜体重別(横浜文化体育館)

皇后杯全日本女子選手権(東京武道館)

全日本ジュニア(埼玉県立武道館)

講道館杯全日本体重別(千葉ポートアリーナ)

(2) 競技運営の指導及び補助

全国教員柔道大会(秋田県立武道館)

国民体育大会柔道競技(兵庫県立武道館)

(3) 視察

必要に応じた国内外大会視察への派遣

第8号議案 全柔連教育普及委員会からの報告

全柔連教育普及委員会 = 浅野哲男副委員長

全柔連教育普及委員会 = 田中裕之委員

1. 平成18年度教育普及委員会事業について

- (1) 日体協スポーツコーチ養成講習会運営
- (2) 柔道教室開催
- (3) 柔道フェスタ支援
- (4) キッズ柔道支援
- (5) 視聴覚障害者支援
- (6) 普及発展に関する全国調査
- (7) 安全指導

2. 中体連柔道部との関わり

- (1) 教育普及活動への支援(前記2.3.4.5)
各地で開催される全柔連主催事業への動員、運営協力

(2) 安全指導の実践

依然として減少しない事故

- ・平成15年度より全柔連障害保障・見舞金制度発足
- ・死亡、後遺障害の恐れを有する事故が多発
- ・8割が中高生の事故

事故の実態

- ・6割が修業年限2ヶ月未満
- ・受傷原因：相手の技で後頭部を強打、急性硬膜下血腫、頸椎損傷
(受傷直後の発症だけでなく、練習終了後休んで帰ると部室に残り、翌日部室で死亡しているのが発見された例もあり)

指導者の責任

- ・突きつけられるさまざまな責任
民事責任：損害を受けた被害者への損害賠償責任
刑事責任：犯罪性の有無に関わる責任
行政責任：公務員としての措置義務違反、信用失墜行為に関わる責任
道義的責任：指導している中で怪我を(死亡)させてしまったことに対する責任

安全配慮義務

- ・危険を予見し、危険を回避する義務
事故要因：柔道の特性、環境、競技者
事故を未然に防ぐ練習計画、安全を配慮した環境整備、競技者の健康管理
- ・事故発生の際に適切に対処する義務(措置義務)
受傷者の安全確保、連絡体制の確立(校内、専門医療機関、家庭、校外マスコミ等)

組織的な安全指導研修の必要性

- ・危機管理意識の啓発を図る指導者講習会
- ・安全でよりよい指導の在り方を追究する相互研修会
『柔道の安全指導』(財団法人全日本柔道連盟)参照 = 別紙配付資料
全柔連事務局に、この安全指導についての講習会を要請すると執筆担当者を中心として冊子を使用した説明担当講師を派遣してくれる。
都道府県中体連柔道部として、講師招聘を検討されたい。

第9号議案 柔道ルネッサンス委員会からの報告
柔道ルネッサンス委員会 = 浅野哲男委員

1. WG制(11WG)から小委員会制(11委員会)への活動組織の再編成
 - (1) 16・17年度の活動《ワーキンググループ(WG)制の活動》
 - 「ポスター・横断幕・キャッチフレーズWG」
 - 「ホームページ・広報WG」
 - 「スピーチWG」
 - 「都道府県ルネッサンスWG」
 - 「幼児教育WG」
 - 「少年少女育成WG」
 - 「大会プログラム等によるプロバガンダWG」
 - 「ボランティア活動WG」
 - 「障害者との交流支援WG」
 - 「アンケート調査WG」
 - 「指導者教育及び正しい柔道の推進WG」
 - 『総務WG』
 - (2) 18・18年度の活動《小委員会制の活動》
 - 「キャッチフレーズ小委員会」
 - 「障害者との交流・支援」
 - 「都道府県柔道ルネッサンス小委員会」
 - 「少年・少女教育小委員会」
 - 「スピーチ小委員会」
 - 「広報小委員会」
 - 「中学校柔道の支援小委員会」
 - 「女性プロジェクト小委員会」
 - 『柔道ルネッサンス総務』
2. キャッチフレーズ(公募活動)
 - 平成15年度 小学生からの公募
 - 『礼儀は僕らの得意技』
野口健太君(東京都大田区小学5年生)
 - 『柔道で世界のみならず友達に』
飯島愛翔君(東京都大田区小学5年生)
 - 平成17年度 中学生からの公募
 - 『磨いた技に黒尾帯をいつも心に白帯を』
西村裕也君(佐賀県小城市中学2年生)
 - 『柔道で、世界に発信 日本の心』
中村光児君(青森県つがる市中学2年生)
 - 平成18年3月26日(日)
第19回近代柔道杯全国中学生柔道大会で表彰。
 - 平成18年度 高校生からの公募
 - 平成18年10月31日締め切り(当日消印有効)
 - 応募資格・・・柔道に興味・関心を持つ高校生
 - テーマ 友情・夢・挑戦・敬愛・礼節
3. 中学校柔道支援小委員会(委員長・・・尾形敬史、副委員長・・・浅野哲男)

中学校柔道部の設置校数の減少や柔道部顧問の高齢化、柔道部の指導を志す新規採用教員の合格率の低下等々の事由により、抜本的な対策が必要との声が高まり、別紙のような内容での検討を始めている。

柔ルネ資料1

柔道ルネッサンス委員会 中学校柔道支援小委員会 第1回議事要旨(案)

1. 日時 : 平成18年5月15日(月) 17:30~19:30
2. 場所 : 講道館 本館3階 第3会議室
3. 出席者(順不同、敬称略) : 山下泰裕、尾形敬史、浅野哲男、射手矢岬、廣川 充志、木村博行(6名)
(事務局) 坂本健司
欠席者 : 濱田初幸、高橋進(2名)
4. 配布資料 (浅野副小委員長より)
 - 資料1 : 平成12年度~平成17年度日本中体連柔道部都道府県委員長への諸調査から
 - 資料2 : 日本中体連柔道部加盟校数・加盟率
 - 資料3 : 平成18年度都道府県委員長連絡先
 - 資料4 : 日本中体連柔道部の公認審判員資格取得状況
 - 資料5 : 中体連柔道部として取り組む「柔道ルネッサンス運動」(参考) : 「柔道ルネッサンスについて」(山下委員長講演内容)
5. 議事
 - (1) 議事に先立ち、山下委員長からご挨拶
「本小委員会は柔道ルネッサンスの最重要課題の一つと認識しており、極力参加したいと考えている。
中学柔道、ひいては、柔道人口の減少に対し具体的な対策を積極的に打ち出していきたい。」
 - (2) 議事...資料1に沿って浅野副小委員長から説明
柔道部顧問の確保について
 - 1) 柔道の教員を中学校に送り込む活動
 - ・練馬区では保健体育科の非常勤講師を中心として、教員試験に向けた勉強会を平成17年11月から開始。現在では、練馬区とか保健体育科とかにこだわらず36名が登録している。明治大・日体大等の現役学生も参加(但し、柔道だけでの実施とはしていないが(うち柔道5名))
H19年度採用試験(7/9 一次試験、8/7 発表)で実績を上げ、中学校柔道指導者を目指す非常勤講師を中心とした、教員採用試験に向けた勉強会を東京都全体へ拡大したい。合わせて、中学校柔道指導者を目指す大学生(保健体育科にこだわらない)を募っての勉強会も企画していく。会場として、講道館「教室」を視野に入れている。
更に、全国的な活動にすべく、対策を検討中
まずは東京で実績を作り、取り組み内容を他地域の柔道出身の管理職へ紹介、各地域で中心となり得る人物に、各地の事情に合わせた方策を講じてもらうように働きかけたい。
 - ・国立大学の柔道部員へのアプローチ(特に教育学部の学生、体育教員以外も対象) 全国国立大学柔道大会にて、各大学柔道部顧問へアピール
大会前日7/1(土)16:00~ 講道館にて、山下委員長より講話予定(大会要項にも記載済み)
H20年度教員採用試験に向けた東京都の取り組み(勉強会)を紹介予定
 - ・教員の人事権を持つ教育委員会にも柔道出身者を送り込みたい(現時点では有効な対策はないが)
例) 市には、人事権を持つ柔道出身者が居り、毎年1名の採用を継続
平成19~23年度の教員採用数増は好機
例) 東京都の平成19年度教員採用枠(中学+高校)...10教科600名(平均だと

保体科で60名か?)

2) 外部指導者の導入...公立中学校教員の定期異動に伴う廃部防止策として
(逆に教員の異動の度に柔道部が増える仕組みを目指す)

- ・ 外部指導者の導入は既になりに進んでおり、外部指導者頼みである部活動が多い一方、外部指導者のマナーが問題視されるなどの弊害も指摘されているなど、地域によっての違いが見られている。
- ・ また、柔道の教員自体が、自分の管理が及ばなくなる部の存続を希望しないケースもあり。
- ・ (中体連の課題でもあるが、)ルネッサンス委員会としても、良い指導者を集めること、指導者の育成・啓発、人材バンクの作成によるネットワーク作り、等の対策を進めたい。

3) 管理顧問の積極的育成

(管理顧問;外部指導者を導入している部、または、町道場など学校外で活動している生徒を引率する教員。柔道未経験者。制度としては特に問題点なし)

- ・ 管理顧問を取り込み、中学校柔道シンパを拡大していくことも課題
但し、管理顧問の実数は未把握(顧問の総数を管理しているため)。今後、全国調査の予定

4) 他部の顧問をしている柔道出身の教員を柔道部顧問にする活動

- ・ 赴任当初は希望する部活動の顧問になれないケースが多い 2~3年は希望し続けるよう指導
- ・ 永年、他部の顧問をしている教員には、先輩から手紙を出す等の対策を講じたい

柔道部員の確保について

少年柔道は全国的に活性化 中学校にどう取り込むかが課題 (特に柔道が盛んでない地域で)

1) 武道(柔道)教育の良さの広報活動

- ・ 「柔道ちょっといい話」
柔道を通じた健全育成実践例の収集と紹介 全国調査予定

2) 安全教育における絶対効果のPR活動

- ・ 受身の効用を積極的に紹介
柔道を取り入れている学校と取り入れていない学校では怪我の発生率に有意差があるはず
調査、PR活動を検討

3) 地区社会教育団体・サークルとの連携 (中学柔道の社会体育化の先取りの意味合いもあり)

- ・ 地域の小中学生を指導している東海大柔道部のような事例を拡大したい
例えば、大学院生や選手を外れた4年生などを派遣する 等

指導費(活動手当て)について (中体連での対応紹介)

- ・ 教員への部活動手当て...特勤手当ては現状0(2重払いの指摘あり)都道府県によって違いがある
都教委「部活動振興検討委員会」にて「教特法」の改正、受益者負担の方向性等を検討中

- ・ 土、日曜日の公式戦については、4時間単位での振替が可能な制度に改訂

その他

1) マナー・礼法についての啓発活動

- ・ 教員、外部指導者、管理顧問、保護者それぞれに啓発活動が必要
中体連柔道部、ルネッサンス委員会全体、本小委員会それぞれの課題。例えば、他県の指導者をスピーチに呼んで、マンネリ回避、情報交換を促進

するなど

2) 財源について

- ・ 高体連は昇段審査料が入る。中体連も何らかの対策が必要（都中体連柔道部では企業から協賛金を得て活動）

3) 情報公開について

- ・ 「柔道ちょっといい話」、外部指導者（人材バンク）、柔道施設等の情報をHP上で公開できないか

（廣川委員より提案）

既に中体連柔道競技部のHPあり ... URL ; <http://znjk.s101.xrea.com/>

但し、現状の利用率は低い（約半分の県しかエントリーしていない）

更新頻度が低いためアクセス数が増えない。HP専任の担当者を置く程の財源もない、等の問題あり。

文部科学省が教育指導要領改訂の中で、柔道を正課に入れることを検討中

茨城県常総市石下中学（鈴木桂治選手の出身校）をモデル校に指定

ルネッサンス委員会としても全面的にバックアップしていく

礼法，思いやり，受身の効用等の観点から、将来的には小学校高学年での正課を目標としたい。（山下委員長）

今後の進め方

1) 小委員会メンバーの追加（浅野副小委員長より）

- ・ 柔道界の外から、違った視点で中学柔道を見ている管理職教員を数名追加したい

- ・ 教員を採用する側の教育委員会関係者の追加も今後検討したい

（現役は問題あるが、引退していれば可能）

候補者リストを浅野副小委員長から尾形小委員長に提出、山下委員長の承認を得て追加の運び

2) 今後の日程

- ・ 6/26（月）または 6/27（火）または 6/28（水）； 第二回小委員会可能であれば上記追加メンバーも参加
- ・ 7/13（木）； ルネッサンス小委員長会議
- ・ 教員採用試験に向けた勉強会
- ・ 「柔道ちょっといい話」の収集等の取り組みを紹介予定

これからの具体的な支援施策(案)

1) 事例収集

部員数の多い学校・・・なぜ部員が沢山集まるのか?その秘訣

全国的レベルで部員数の多い学校を紹介し、その学校になぜ柔道部員が多く集まるのかを探り、いくつかの事例の中で、共通する方法論があれば、具体的な事例として紹介する

柔道ちょっといい話・・・柔道を学ぶとこんなに素晴らしい人格が形成される

全国的レベルで調査し、柔道の良さ、教育効果を上げている実践例を紹介する。部員が、練習の合間を縫ってボランティア活動行っている学校や柔道部員が率先して挨拶を実施した結果、全校挨拶運動が広まり、その活動が高く評価されている学校などを紹介します。

その他

2) システムづくり

顧問の異動によって、柔道部が廃部にならないようにするシステム

顧問の異動が予定される年度から、外部指導者を導入し、顧問が異動した後はその外部指導者が柔道部を指導する。顧問は管理顧問を学校にお願いする。

都道府県中体連柔道部と国立大学柔道部顧問との連携づくり

将来、中学校柔道部を指導したいという希望を持つ国立大学柔道部員を抱える大学柔道部監督と連携し、中学校教諭に育て上げるシステムを構築していく。

柔道部顧問の育成・・・茨城県の実践

現在、柔道部の管理顧問をしている者のうち、柔道を経験していない指導者に対して、柔道を学習する機会を設けるシステム

柔道経験を有する小学校教諭を近隣中学校の柔道部指導者とするシステム

小学校で柔道を指導できる環境づくりも含め、近隣小中学校と連携し合う中、小学校教諭の柔道経験者をお迎えする方法論の検討

国立大学柔道部指導者都中体対連柔道部のネットワークづくり

日本中体連柔道競技部には、既に全国的なネットワークが構築されている。大学関係者と中体連柔道部との情報交換が可能な環境は用意できるものと思う。

3) 中学校柔道支援者の確保

中学校柔道部顧問のOB

元校長経験者で中学校柔道に理解を寄せていただいている方々

もと行政経験があって、中学校柔道に理解を寄せていただいている方々

小学生柔道指導者の方々

都道府県柔道連盟(協会)及びその傘下連盟(協会)の方々

柔ルネ資料3

中学校柔道指導者（教員）を志す者への支援活動計画（案）
- 平成20年度東京都公立学校教員採用候補者選考に向けて -

- 1 目的 東京都の公立中学校で柔道部活動の指導を強く希望し、平成20年度教員採用候補者選考を受験する者に対しての指導を行う。
- 2 対象 東京都公立中学校の教員を目指し、教員採用候補者選考を受験し、柔道部顧問となることを強く希望している者
公立中学校非常勤講師のうち、採用後柔道部顧問を志す者
社会人特別選考を受験する者で、中学校柔道部顧問を志す者
平成19年度に大学4年に在学する者で、卒業後、中学校柔道部顧問を志す者
平成19年度に大学3年に在学する者で、卒業後、中学校柔道部顧問を志す者
教科は特に問わない。
参加人数は制限しないが、できるだけ多くの回数に参加できる者。
- 3 指導担当 柔道・教育等の講演 講話・演習等の指導
柔道論や教育論の講演指導は、この支援活動をご理解とご協力いただけるであろう柔道経験のある学識経験者や元校長、教育行政等の有識者等をお願いをしていく。講話・演習には、論作文添削等のご指導をいただける方々の相当数に依頼予定。
- 4 内容 一次試験＝筆記試験（一般・教職・専門教養、論文）
二次試験＝面接試験（個人面接・集団面接）、実技試験
一般選考、社会人特別選考、一般選考特例（非常勤講師）のグループに分かれ、
採用選考に向けた計画的な勉強に取り組む。
- 5 会場 講道館 新館 教室（予定）
- 6 日程 平成18年10月21日（土）～平成19年6月31日（金）
平成18年10月 6日（金） 平成19年度二次選考結果発表
10月21日（日） 開講式 委員長講話・合格者体験発表等・教員採用候補者選考の中身等
11月 講話 嘉納治五郎の教師（育）論
12月 講話 少年柔道普及に関わる中学校指導者への要望
平成19年 1月 講話 教師への道
2月 演習 論文の書き方
3月 演習 論文の書き方
4月 6日（金） 平成20年度選考要項発表（都教委HP発表）
14日（土） 講演 東京都が求めるこれからの教師像
21日（土） 演習 論文の書き方
28日（土） 演習 論文の書き方
5月 1日（金） 受験申込締切
12日（土） 講演 武道教育に必要な教師の資質と心構え
19日（土） 演習 論文の書き方
26日（土） 演習 論文の書き方

6月	2日(土)	講演	論文の書き方(具体的な実践を基にして)
	9日(土)	演習	論文の書き方
	16日(土)	演習	論文の書き方
	23日(土)	演習	論文の書き方
	30日(土)	閉講式	教採候補者選考に向けての総括(激励)受験番号報告
7月	8日(日)	<u>一次選考</u>	
	14日(土)		教採候補者選考報告会
8月	6日(月)	<u>一次発表</u>	
	11日(土)	講和	面接の受け方と集団討論の実践
	12日(日)	演習	面接と集団討論
	18日(土)	<u>二次面接試験1日目</u>	
	19日(日)	<u>二次面接試験2日目</u>	
	27日(月)	講和	実技試験の概要
	28日(火)	演習	実技試験練習
	29日(水)	演習	実技試験練習
	30日(木)	演習	実技試験練習
9月	2日	<u>二次実技試験</u>	
10月	6日(金)	<u>二次発表</u>	

一次試験に向けた勉強会のための開講式を18年10月21日(土)とし、閉講式を19年6月30日(土)とする。

二次試験面接や実技試験がある者への演習は、別に定める。

二次試験に合格し、平成20年度に「東京都公立学校教員採用候補者名簿」に登録された者を対象に、正規に採用される日に備えた資質向上を図るための研修会は別に定める。

また、この勉強会の平成21年度教員採用候補者選考に向けた勉強会への支援活動を行うメンバーとなる。

7. 申込先及び問い合わせ先

〒178-0062 練馬区大泉町5-4-32 練馬区立大泉北中学校内
浅野 哲 男 宛 (東京都中学校体育連盟柔道部副部長)
TEL 03-3925-9221 FAX 03-5387-2293

8. 参加費(予定)

保険料+資料代として、1000円~2000円程度を徴収する方向で検討中

この勉強会を具体的に実践するために

この取り組みは、中学校の教員となって、柔道部顧問として柔道指導者になろうとする者を育てていこうとするものである。

将来的に、(財)講道館や(財)全日本柔道連盟が全面的に支援していただけることを期待し、あらゆる機会を捉えて、全ての教育関係者及び柔道関係者にご理解いただき、ご支援いただける企画としていきたい。その先駆けとなる取り組みとして、東京都から発信していけるよう準備を進めている。

- (1) この勉強会は、柔道部を指導しようとする中学校教員を確保しようとする具体的な取り組み策の一つである。平成19年度に試験的に東京で実践的な取り組みを行う。
論作文などの実践的な演習を中心とした勉強法を指導することを通して、教員採用候補者選考に合格を目指す勉強会である。
- (2) 嘉納治五郎師範の教育論を中核として、中学校柔道指導者に必要な資質・理論を学ぶことができる講話を行う。教育普及・強化等、中学校柔道指導者に求められている小・高校との連携を中心とした底辺拡大や強化との結び付きを理解できる機会とする。
- (3) 教育行政に籍を置いた経験を有する方々を勉強会の指導者に招聘し、教育界が求めている教師像等の講話をいただき、教師になるための理論と実践的な指導を仰ぐ。
- (4) 東京都の公立中学校等で、柔道経験を有する管理職及びその経験者から、現場で必要とする教師に必要とされる資質や求められている教師像について講和をいただく。
- (5) 中学校柔道部指導者を志す者が集まって、10月から3月までは、月1回程度、講和を中心として、柔道部指導者に求められている現状を学ぶ。そして、中学校柔道指導者への志しを強く持たせていく。
19年度4月からは、週2回程度の勉強会で、論作文演習や教養試験演習等を繰り返し実施し、選考日までに実践的な能力を身に付ける。論文添削等のお手伝いをいただける方々の協力者リストを作成し、計画に沿って論文指導等をお願いしていく。
- (6) 中学校柔道指導者になろうとする平成19年度教員採用候補者選考合格者に、合格までの自分の取り組みを話してもらい、これから受験する者への励みとさせていく。
- (7) この勉強会を通して、見事、「平成20年度採用候補者名簿」に登載された者は、発令される日までの間、柔道部顧問となるために必要な事柄や顧問になってから取り組む諸課題、赴任する学校で必要とされる教員になるための様々な資質・能力を身に付ける研修を受けなければならないこと、平成21年度の勉強会を手伝うこと等を理解させていく必要がある。